

操車場跡地新駅整備に関する情報提供について

市では、平成31年3月に決定した「青森操車場跡地利用計画」に基づき、青い森鉄道線への新駅設置の実現に向けた検討の基礎資料とするため、新駅利用意向等に関するアンケート調査を行い、その結果等について、7月16日に県に情報提供した。

なお、調査票の回収率については、駅勢圏内の常住者は30.0%（1,300世帯中390世帯）、従業者は94.4%（72事業所中68事業所）、通学者は100.0%（4校中4校）であった。

1 市民の新駅利用意向について

①常住者（駅勢圏内）

操車場跡地近隣の常住者の**42.6%（17,921人）**の方に利用意向があるという結果となった。

新駅の利用意向	操車場跡地新駅			（参考）筒井駅		
	回答数 （人）	構成比 （%）	利用意向人口 （人）	回答数 （人）	構成比 （%）	利用意向人口 （人）
利用意向あり（※）	240	42.6%	17,921	124	24.6%	8,883
利用意向なし	284	50.4%	21,206	380	75.4%	27,223
わからない	39	6.9%	2,912	-	-	-
合計	563	100.0%	42,039	504	100.0%	36,106

※ 操車場跡地新駅の「利用意向あり」とは、「利用すると思う」と「機会があれば利用すると思う」の合計。また、筒井駅では、「わからない」の選択肢は設けていない。（以下、同じ）

②従業者

操車場跡地近隣の従業者の**15.7%（3,458人）**の方に利用意向があるという結果となった。

新駅の利用意向	操車場跡地新駅			（参考）筒井駅		
	回答数 （人）	構成比 （%）	利用意向人口 （人）	回答数 （人）	構成比 （%）	利用意向人口 （人）
利用意向あり	502	15.7%	3,458	65	9.0%	876
利用意向なし	2,510	78.7%	17,294	660	91.0%	8,892
わからない	179	5.6%	1,234	-	-	-
合計	3,191	100.0%	21,986	725	100.0%	9,768

③通学者

操車場跡地近隣の通学者の**14.6%（363人）**の方に利用意向があるという結果となった。

新駅の利用意向	操車場跡地新駅			（参考）筒井駅		
	回答数 （人）	構成比 （%）	利用意向人口 （人）	回答数 （人）	構成比 （%）	利用意向人口 （人）
利用意向あり（※）	313	14.6%	363	不明	47.7%	458
利用意向なし	1,605	74.8%	1,863	不明	52.3%	504
わからない	229	10.7%	266	-	-	-
合計	2,147	100.0%	2,492	-	100.0%	962

※ 操車場跡地新駅の「利用意向あり」の構成比14.6%の内訳は、青森山田高校6.6%（141人）、青森中央高校4.2%（92人）、東奥学園高校3.2%（68人）、青森山田中学校0.6%（12人）。筒井駅の対象は青森高校のみ。

2 利用計画の実施による新駅利用見込者数等について

筒井駅の検討にあたっては、鉄道利用者のODデータ等を用いて利用見込者数の推計を行っているが、本市において現時点で利用可能なデータを用いて推計を行うこととし、筒井駅に関するアンケート調査結果と、筒井駅における平成30年度の乗車人員実績の関係性から、青森操車場跡地へ新駅を設置した場合の利用見込者数の推計を行った。

常住者（駅勢圏内）について、筒井駅に関するアンケート調査結果では、利用意向人口が8,883人と推計されたのに対し、筒井駅の乗車人員実績（定期外）は74,825人／年であった。今回のアンケート調査結果では、利用意向人口が17,921人と推計され、利用意向人口に対する乗車人員実績の割合（ $74,825 \div 8,883 = 8.42$ ）が「利用すると思う」と回答した方は筒井駅と同程度、「機会があれば利用すると思う」と回答した方はその1/2程度であると推測すると、新駅の乗車人員は **103,427 人／年**と推計される。同様に、従業者・通学者について、筒井駅の乗車人員実績（定期）を参考に算定すると、新駅の乗車人員は **393,733 人／年**と推計される。

また、市で整備するアリーナの平常時の利用者数については、現段階で、年間213,756人と想定しており、これに対して、交通分担率を考慮すると、平常時の鉄道によるアリーナ利用者は9,192人／年と推計される。大会・イベント時の利用者数については、現段階で、年間48,000人と想定しており、これに対して、交通分担率を考慮すると、大会・イベント時の鉄道によるアリーナ利用者は1,776人／年と推計され、鉄道によるアリーナ利用者は合計 **10,968 人／年**と推計される。

これらを合計すると、**操車場跡地新駅の利用見込者数は、年間508,128人／年**となる。

なお、路線バスからの乗り継ぎ等による新駅利用見込者数については、今後推計することとしている。また、今回のアンケート調査の対象範囲（新駅の駅勢圏内）に含まれるものの、現在、青森駅や筒井駅を利用している方も一部想定されるが、その数を推計することが困難なため、今回の推計では考慮していない。

区 分	利用見込者数 (人/年)	(参考) 青い森鉄道線 H30 乗車人員実績 (人/年)	
		青森駅	筒井駅
常住者（駅勢圏内）	103,427	/	/
従業者・通学者	393,733		
アリーナ利用者	10,968		
バス乗り継ぎ	(今後推計)		
合計（人/年）	508,128	886,038	289,993
合計（人/日）	1,392	2,428	795

3 新駅整備による効果や影響について

(1) 市民生活面や社会経済面へ及ぼす効果や影響（社会的便益 等）

新駅整備により、移動時間の短縮や定時性の確保、公共交通の利用者の増加、鉄道事業者の収益の増加、環境の改善、交通結節点の形成、南北の移動の利便性の向上などの効果や影響が期待できる。

(2) 当該地域の定住・交流人口の増加に繋がるまちづくり施策や将来計画の有無及びその具体的内容等

「青森市総合計画」や「青森市立地適正化計画」、「青森市地域公共交通網形成計画」等において、新駅設置の検討について位置付けているほか、「操車場跡地周辺地区」においては、都市機能誘導区域として、既存ストックの有効活用や都市機能の立地の促進を図ることとしている。

4 新駅の整備箇所について

(1) 北側用地に新駅を整備する理由（南側用地との比較評価 等）

新駅については、「青森操車場跡地利用計画」における整備イメージにおいて、便宜上、北側用地に係る記載の中で整理しているが、新駅と自由通路を一体的に整備することにより、南側、北側のどちら側からでも駅を御利用いただけるものと考えている。また、駅前広場については、青い森鉄道線の線路が北側寄りに位置している状況を踏まえると、北側に整備することを想定しているが、アリーナの整備を予定している南側についても、駐車場などの整備を予定しており、同様の機能が整備されることとなる。

(2) 自由通路、駅前広場、駐車場等の整備概要

自由通路は既存施設を参考として検討するほか、駅前広場には、バスの停留所、駐輪場及び駐車場などの施設を配置したいと考えているが、新駅の整備内容等により必要とされる機能・規模等が異なることから、新駅の検討と並行して、青森県とともに協議・検討して参りたいと考えている。